今、私たちにできること

２月１日、白石市男女共同参画相談支援センター主催の男女共同参画推進セミナー「今、私たちにできること」と題した講演会が開催されました。セミナーには、45人が参加。この日は法務教官として少年院と刑務所に勤務され、非行少年や犯罪受刑者の矯正教育に携わってきた石澤善明（いしざわよしあき）さんが、日々繰り返される犯罪を防ぐために、私たちにできることは何かを話しました。

「私は、刑務所と少年院にそれぞれ18年、計36年間勤務しました。塀の中の人びとに教わったことを話したいと思います」と、石澤さんは穏やかに話し始めました。

どうしたら より良い環境にできるのか

少年院や刑務所に入ってきた人には、入所初日にさまざまなアンケートを書いてもらうのですが、その設問の中に「これからの収容生活の中で心配なこと」「不安なこと」という項目があります。すると入所者の８～９割は、「いじめられないか」、さんざんいじめをしたり、悪いことをしたりしてきた人たちがそうはっきりと書くのです。

また、「嫌がらせをされないか」「トラブルを起こさないでうまくやっていけるか」。そういったことが書かれています。

少年院や刑務所に入ってきた人にはまず始めに、「新入時教育」というものを行っています。規則を守ることの大切さと、人間関係や対人関係について繰り返し指導を行うのです。

また、出所する時にも、「収容生活で辛かったこと」「苦しかったこと」など、アンケートを書いてもらいます。そこでも人間関係や対人関係で、「辛かった」「苦しかった」「難しかった」などとほとんどの人が書いています。

では、どうしたらより良い環境にできるのかを話し合うのですが、私が強く主張してきたことは、人間関係や対人関係が少なくとも悪くなることはないであろうと思われることです。

１つ目は、「返事をする」。当たり前のことですがそれが難しいのです。文字で書けば「はい」だとしても、感情のある人間の口から出る「はい」は十人十色。その人の気分でも違います。だから対人関係を悪くしない返事というのは、「明るく」「しっかり」ということになるかと思います。

２つ目は、「あいさつは明るく、いつでも、先に、続ける」。「感謝とお詫（わ）びの気持ちを伝える」ということです。この感謝とお詫びの気持ちを伝えることは、皆さんは常日ごろの生活の中で行っていることだと思いますが、ここで私が強調して言いたいのは、「感じた時にすぐ伝える」ということです。

「ありがとう」「すみません」。時間が経ってしまうとややこしくなってしまうというか、より丁寧な感謝やお詫びの仕方をしなければならなくなってしまう。すぐに、誠意を持って言えば相手にもその気持ちは伝わります。

難しいと思うのは、「いつでも、どこでも、だれとでも分け隔（へだ）てなく『平等に』行うこと」です。これはかなり難しいと思います。社長、施設長が出勤してきたら「おはようございます」、後輩には「おはよう」。これでは気分が悪いと思います。ましてや無視なんてされたら相手はとても傷つきます。相手がだれであっても感謝やお詫びの気持ちをすぐに伝えることができたら、その人は、とても素晴らしい人になれると私は思っています。

さらに、積極的に人間関係や対人関係を良くするために心掛けた方がよいと思うことは、「楽しい会話をすることを心掛けること」です。人は、気兼ねなく話せると楽しいと感じるもの。これは、塀の中も塀の外も共通です。

では、楽しい会話をするためにはどういったことを心掛け、気を付けなければならないのでしょうか。共通の会話をするためには共通の体験が必要。食事でも旅行でも何でもよいのです。また、会話は喋るだけではなく、聞くことがとても大事なのです。

三猿主義

３つ目は、「三猿主義」。「見猿」「言わ猿」「聞か猿」。これは人の都合の悪いところや失敗は見なかったことにする。聞かなかったことにし、他言はしない。ただ、そういったことは見たいし、聞きたいし、喋りたい。それは構わないと思いますが、見方、聞き方、しゃべり方には気を付けなければならないということです。

では、どのようにするか。見る「自分の目でよく見る」、確認する「状況を把握する」、聞く「よく聞く、正しく聞く、言葉だけではなくその言葉を発している人の思いを聞く、心を聞く」。そして、話す「話す時はよく言葉を選んで、誤解されないように、正しく自分の思いが伝わるように、誠意を持って話す」。私はそういうことが大切ではないかと思っています。人間の耳が二つで口が一つということは、少なくとも二つは聞いて、そして、一つをしゃべる、そういうことなのではないかと思っています。

人間関係や対人関係を悪くしないためにはこの３つ、さらに積極的に望ましい関係を築くために楽しい会話をする。このことを私は強調して少年院と刑務所に入ってきた人たちに話をしてきました。

それと、より良い対人関係を築くため、最近思っていることは困った時に、「助けて」「お願いします」と素直に言えるかどうかです。素直に、「困った」「助けて」と言える勇気が、人生をより素晴らしい方向に進めるための大きな事柄につながっていくと思っています。

子どもと接する時間をできるだけ作って

出所時のアンケートの中に、「入所中、楽しかったこと」「うれしかったこと」という設問があります。回答には、「仕事を休んで遠くから家族が面会に来てくれたこと」というものが多く、家族と面会をした人たちは、しばらくは穏やかな生活を送り、対応もやわらかくなったりします。施設に入ると、家族との時間を過ごすことがとても安らぐようです。

刑務所には、年老いた母親が面会に来ることもあります。面会時間は15～30分。それしか会えないのに何時間もかけて母親が面会に来るのです。そんな姿を見ると、普通の人と変わらないと感じます。生きるうえで人は、さまざまな人から恩を受けます。その中でも母親からの恩が一番大きく、「10億の人の10億の母あれど、自分の母親に勝（まさ）る者なし」という言葉がありますが、私もその通りだと思います。

母親が自分の子どもに対してどれくらい思いがあるのか。「男女雇用機会均等法」「男女平等」「男女共同参画社会」「男女同権」。女性が社会に出て活躍することはとてもよいことだと思っていますが、女性が社会で活躍すればするほど家にいる時間が少なくなってしまう。

つまり、子どもと接する時間が短くなってしまいます。共稼ぎの夫婦も多く、母親が子どもを施設などに預けて社会で活躍する。それはよいことですが、私は、新生児期から幼児期くらいまでは、子どもと離れてほしくないと思っています。男がいくら頑張っても、母親になることはできません。

子どもの大切な時期は、「母親が子どもと接してほしい」。どうしても無理なら、「母親が子どもと接する時間をできるだけ作ってほしい」と強く思っています。

そういう大切な時期の子どもを預かる保育園や幼稚園などの保育士さんたちは一番大変です。限りなく母親に近い立場なので、素晴らしい方になってほしいと思っています。

記憶に残る塀の中の人びと

出所時のアンケートの「うれしかったこと」の設問には、「運動会やソフトボール大会、文化祭などで、友達と協力してその行事を成功させた」と書かれいるものもありました。これは、入所前、友だちと協力して行事に携わった経験がないためではないかと思います。

刑務所では、職業訓練としてさまざまな資格を取ることができるので、「資格を取ることができた」と書かれているものもありました。私は何千、何万という塀の中の人と出会ってきました。その中でも忘れられない人の話をしたいと思います。11回運転免許の試験を不合格になった人の話です。その人は、小型車両系建設機械の試験という３ｔ未満の建設試験を一発で、フォークリフトの試験にも合格しました。その後、危険物取扱乙種第４類の試験にも合格。ものすごく一生懸命に勉強をし、やればできるという心の支えを得て、歩み出しました。

もう１人は、中学を卒業して、強盗傷害などで、懲役８年くらいの実刑。少年院に入ってから通信制の高校に入学して４年で高校を卒業。その後、大検に合格して、通信制の大学に入学し、出所する時には大学２年在学中でした。

人は変われる 新しい自分への第一歩を踏み出して

私が塀の中の人びとに教わったと一番に感じていることは、「人は変われる」ということです。「なりたい自分」「好きな自分」「こうありたい自分」に人は変われます。これは塀の中だけのことはありません。どうしたら変われるのか。その第一歩は、「やりたいことはやってみる」「やりたくないことは勇気を出してやめる」ことではないかと思っています。

それを、「家庭」「地域」「社会」で実践していけば、間違いなく犯罪防止につながっていきます。自分自身が加害者にならないように、被害者にならないように、社会の最小単位は、「家庭」です。それぞれの家庭で実践していただければと思います。

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、為さぬは人の成さぬなりけり」。ぜひ、「新しい自分」への第一歩を踏み出してください。